

コルザ

2013
2・3 月号
No. 333



コルザはフランス語で「菜の花」。組合員がつくる生活クラブ虹の街の機関紙です。

今月の食卓

メープルシロップ カナダの森の恵みを食卓に

特集

エコロ福祉基金助成報告

活動ファイル

- エコメッセ 2012 in ちば
- ちば環境再生基金から感謝状
- エコライフのつどい
- くらしの見直し講演会
- 映画『隣る人』上映会
- 託児交流会
- 子どもの居場所こどもカフェ
- 宮台真司氏講演会
- 福島放射能汚染と日常生活の現状
- 地域づくりフォーラム 2012

モニターメール / 理事会・組織報告 / 編集後記

野菜で元気クラブ 農事組合法人 村悟空

クラちゃんラブちゃん 鶏肉ムネおいしく食べるには？

森のなかのメープル小屋 (カナダ)

本部 043・278・7671/ センター柏 04・7134・3801/ センター千葉 043・278・7629/ センター佐倉 043・461・7868/
センター松戸 047・385・4646/ センター市原 0436・60・1583/ センターベイ 047・379・1540/ デポー真砂 043・278・0112/
デポーみつわ台 043・287・2414/ デポー新松戸 047・348・1210/ デポー大津ヶ丘 04・7191・7359/
デポー松葉町 04・7134・0697/ デポー浦安 047・353・0135/ デポー木刈 0476・40・6811/ デポー園生 043・290・0090/



メープルシロップ

We・I	250ml	835 円
デポーフロア	250ml	851 円
(価格は税込)		



北米中西部に広がるサトウカエデの原生林。その樹液を煮詰めたものがメープルシロップ。生活クラブのメープルシロップの産地、カナダケベック州は全世界の約80%を生産しています。昨年3月にカナダの生産者を訪問した(株)プレス・オールターナティブの坪井小百合さんに話を聞きました。

春の訪れとともに

「幸運にも訪問2日目に、樹液が流れ出てくる瞬間に立ち会うことができました。2、3秒に1滴ずつ、ぼたりぼたりと滴る樹液はまさに自然の恵みです。生産者の家の裏には、先祖代々受け継がれてきたメープルの森が広がっていました」と語る坪井さん。

樹液が出るのは3〜4月の約2週間のみ。流れ出すタイミングは生産者にもわかりません。すべて自然任せです。現地の人々にとってこの瞬間は冬の終わりを告げる合図。メープル小屋のまわりに集まり、パーティを開きます。

「カクテルのようなメープルワインを飲んだり、クレー



プだけでなく、ミートパイやハム、卵焼きやポテトの上にもメープルシロップをたっぷりかけて食べるのが流儀。できたてのシロップを雪の上にとらし、ヘラに絡ませながら食べるメープルタフィー(写真上)など、子どもも大人も大いに楽しめます」と話す坪井さんから、春到来を心待ちにしていた現地のようすが伝わってきました。

樹液が出るまで

夏 どんぶんを生成して木の内部に蓄えます。

秋 蓄えたどんぶんを徐々に糖分に変えていきます。

冬 葉を落としマイナス20℃のなか、どんぶんを糖分に変えながら春を待ちます。

春 夜間の気温がマイナス4〜0℃になると内部は真空状態になり、土壌の水分とミネラルを吸い上げます。昼間の気温が4℃まで上がる頃、温められた幹が内部を圧迫し、糖分を含んだ水分が樹液となり自然に流れ出します。

サトウカエデはこのような1年を過ごし、年に一度雪解

けの季節に樹液を出します。森を守りながら

樹液を採取する方法は、まず木にドリルで直径7mmほどの穴を開け、チューブを差し込みます。そのチューブを森のなかに張り巡らせて、重力を利用してメープル小屋に集め



ます。採取する木は、樹齢30年以上、幹の直径が20cm以上で、穴は4つまでと決められています。正しく管理していれば200年は樹液が採れると言われ、生産者は厳しいルールで森を守り親から子へ引き継いでいます。また、古い木は自然に倒れ、新しい芽が出てきます。冬の厳しい寒さのため、病気や害虫はほと

グレード表

カナダ規格	米国規格	透明度	収量割合	収穫時期
No.1 エクストラライト	A ライトアンバー	75%以上	5～15%	2～3日
No.1 ライト	A ミディアムアンバー	61～74%	25%	4～5日
No.1 ミディアム	A ダークアンバー	44～60%	40%	以降
No.2 アンバー	B 業務用	27～43%	20～30%	
No.3 ダーク	(業務用)	0～26%		

← 生活クラブのメープルシロップ。カナダの主な供給先が米国のため、おもてのラベル表記はダークアンバーに。

メープルシロップです。1リットルのメープルシロップを生産するには、およそ40リットルのメープルウォーターが必要で、1シーズンに1本の木からできるシロップは、250mlびんでわずか15本分しかありません。メープル小屋に集まった樹液は、小屋のなかで約8時間かけて煮詰められます。その燃料となるのは枯れたサトウカエデの木。樹液は空気に触れると白く濁ってしまうので、採取したら24時間以内に煮詰めなければなりません。



「ウォーターからシロップへ」木から流れ出た樹液はメープルウォーターと呼ばれ、無色透明で糖度は3%前後。これを66%まで煮詰めたものが

「収穫期は24時間体制で交代しながら火の番をするので、小屋の中にはキッチンがあります。部屋のなかは蒸気が充満し、とても暖かでした」と坪井さん。糖度が6%になると、自動的に釜の蛇口が開き、シロップはドラム缶へ（写真上）。工場へ運び出荷時にフィルターで異物を除き、びん詰めします。プレス・オールターナティブ向けには、光を当てて目視検査もしています。

採取時期で決まるグレード

メープルシロップのグレードは、樹液の出る時期で決まっています。木から出始めの樹液は糖度が高いので煮詰める時間が短く、色は薄め。カナダの規格ではエクストラライトと呼ばれ、さらっとしていて繊細な味わいです。収穫時期がすすむと、糖度が低くなるため煮詰める時間が長くなり、だんだん濃い琥珀色になっていきます。消費材はミディアムというグレードで、市場で一番多く見られるタイプ。メープル独特の香りやコクがあり、風味が優れています（表参照）。カナダでの格付けはびん詰め後出荷時に、

プレス・オールターナティブは第3世界ショップを運営。市民の手で地域・社会の問題解決をめざして、途上国の生産者とのフェアトレードや国内外の枠を超えた地域同士のコミュニティトレードの商品を扱っています。直営カフェ「Asante sana」（アサンテサーナ）の一角には、ライブリーでもおなじみのドライフルーツなどが並び、たくさんの衣類や雑貨なども手に取り購入することができます。

東京都目黒区三田 1-12-22
JR恵比寿駅より徒歩 15分



カナダ農務・農産食品省の検査官が色と味で確認しています。「エクストラライトは、豆腐にかけるとデザートとしてもおいしいですよ。デポに入荷する時があるので、見かけたらぜひ試してみてください。ミディアムは意外にも味噌や丸大豆醤油との相性が良く、和食にも使えます」と坪井さん。

森の恵みを食卓に

森の土壌から得た多くのミネラルを含む樹液からつくられるメープルシロップは、とても栄養豊富。はちみつと比較すると、カルシウムは約40倍、カリウムやマグネシウムは約20倍もあり、他のビタミンやミネラルも含まれています。ホットケーキにかけるだけでなく、飲み物や料理にも取り入れたい優れた素材です。消費材のアーモンドをシロップでコーティングした、メープルアーモンドも出ていますので、併せて利用してみてください。いかがでしょうか。

(畑古恭子)



生産者メッセージ



(株) プレス・オールターナティブ
坪井小百合

(株) プレス・オールターナティブは1985年に立ち上がった会社で、「プレス」はメディアや発信、「オールターナティブ」は代替の、もう一つの、という意味です。それまでのマスメディアの情報では漏れてしまうような身近な問題を自分たちで解決するべく、情報を発信するところから始まりました。

そして、情報として発信するだけではなく、形にすることでより説得力が生まれると考え、南北問題を解決するための一つの方法として、日本で最初にフェアトレード事業を始めました。途上国の生産者との関係づくり、世界のローカルな食文化の交流を通じて元気な地域づくりをすすめていくなかで、生産者パートナーは途上国だけでなく、世界各国に広がり、現在は約30カ国、国内外で約90の団体

とお付き合いがあります。生活クラブには、メープルシロップの他に、紅茶類、ドライフルーツ類、ナッツ類、ワインなどの消費材を提供しています。

メープルシロップはサトウカエデの樹液を煮詰めてつくられます。毎年雪解けの季節になると、自然と流れ出す樹液は、まさに自然の恵みそのものです。

メープルシロップはホットケーキにかける以外にも、料理やお菓子づくりにいろいろ活用できます。カルシウムやカリウムなどのミネラルが豊富で、上白糖やはちみつよりもカロリーが低く優れた食品です。

今後も、安心でおいしい消費材を提供できるよう努力して参りますので、たくさん利用していただけたらうれしいです。

鮭の照り焼き

材料 (4人分)

生鮭4切れ たれ(メープルシロップ 1/4カップ、丸大豆醤油 1/3カップ)

作り方

- ①バットにたれの材料を合わせ、生鮭を入れ、裏と表を返して30分以上おきます。
- ②鮭を取り出し、グリルまたは焼き網に皮目を上にして並べ、おいしそうな焼き色がつくまで焼いて中まで火を通します。

焼きおにぎり

材料 (4人分)

ご飯 みそだれ(みそ大さじ2、メープルシロップ小さじ2) 醤油だれ(丸大豆醤油大さじ1と 1/2 メープルシロップ大さじ1)



右はエクストラライト

和食にも活用

作り方

- ①おにぎりをつくり、焼き網またはオーブントースターで両面焼きます。
- ②一旦取り出し、混ぜ合わせたたれを塗り、さらに香ばしく焼きます。

使える! たれいろいろ

野菜や刺身に合うマリネ液

酢2+メープルシロップ1+真塩少々

酢の物には

酢3+メープルシロップ1+丸大豆醤油少々
すし酢には

酢1+メープルシロップ1+真塩少々

煮物やきんぴらに

丸大豆醤油1+メープルシロップ1

野菜のディップや炒め物にも

味噌1+メープルシロップ1

エコロ福祉基金助成報告



2011年度に一般助成が決定した団体の12年に実施した事業報告、11年度に特別助成を受けた団体の近況について報告します。

エコロは「たすけあい」

エコロ制度は、多くの組合員の参加によりつくられた大きなたすけあいの輪です。

そのなかのエッコロ福祉基金は、助成金で福祉活動を支援

し、組合員が暮らす地域がより暮らしやすくなることをめざしています。毎月100円の掛け金のうち、約25円がこの基金に使われています。

高齢者支援・障がい者支援・次世代育成支援活動をする団体に助成する一般助成と、生活クラブ虹の街が自ら必要と考え生み出してきた事業のなかから、その年の地域づくりの方針に沿って助成する特別助成があります。毎年、助成

は理事会で検討し決定します。1998年から今までに総額1億3千万円以上の助成を行ってきました。

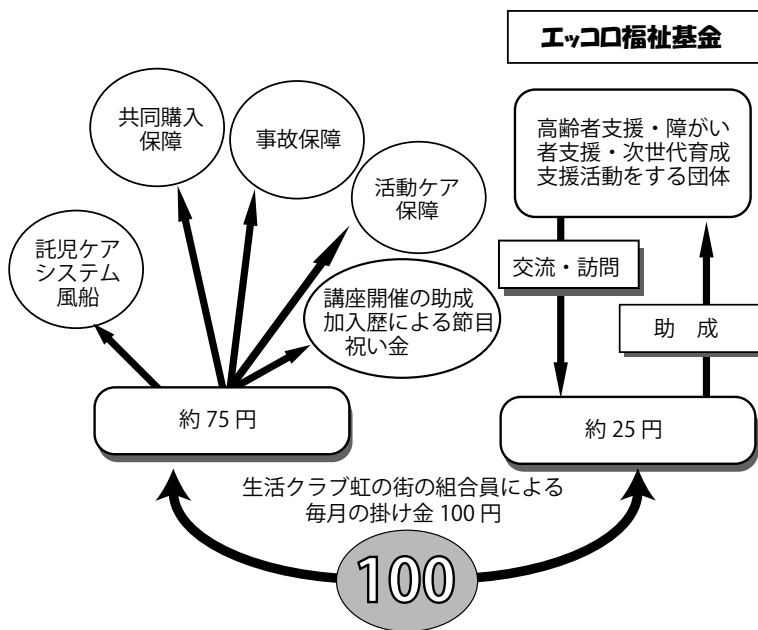
投票結果を審査に反映

助成団体の募集は、『なないろえんぴつ』への記事の掲載や支部組合員による公共施設等へのリーフレット配付、地域の団体への呼び掛け等を通じて行われています。

選考手順を見直し、訪問調査活動期間と同時期に全応募団体を対象にした組合員投票を行い、結果が第一次審査に反映されるようになりました。

2012年度エコロ福祉基金
審査委員長 福住洋美

エコロ制度のしくみ



一般助成 募集から助成決定まで

11年3月「エコロ福祉基金一般助成の進め方」を理事会で承認

7～9月 募集 10団体応募

10月 質問集約

審査委員が応募書類を点検し、質問事項を集約しました。

10～11月 訪問調査活動と組合員投票

団体の活動エリアにあたるブロックの支部組合員が調査します。活動内容や熱い思いを直接聞くことで地域の団体を知り、交流の場にもなりました。

組合員投票は、全組合員を対象に、団体の活動目的や助成による効果などを記載した投票用紙を配付。382人の組合員が投票し、団体へのメッセージもたくさん集まりました。メッセージは公開プレゼンテーションの時に団体へ渡すことができました。

12月1日 審査委員会による第一次審査

ブロックのエッコロ福祉委員が調査報告を行い、その後意見交換をしました。団体全てが第一次審査を通過しました。

12年

1月14日 公開プレゼンテーションと最終審査

10団体24人が参加しました。各団体の持ち時間は5分。一般組合員にも公開されたなか、パネルや写真を使い、活動内容や助成を希望する熱のこもった発表が行われました。その後質疑応答があり、公開プレゼンテーションは終了。最終審査委員会が開かれ、助成団体は9団体にしぼりこまれました。(7ページ下写真)

1月24日「2011年度エコロ福祉基金一般助成」を理事会で承認

2011年度エコロ福祉基金審査委員会メンバー

理事会選出：福住洋美（委員長）、新保ちい子、岩上章子、飯沼菜津子、甘利美恵子、並木道代

ブロック選出：高岸美詠子、清松淳子、肝付典子、井上あかり

事務局：組合員事務局 雨宮明子
組織部 染谷裕行、増田恵

特集 エッコロ福祉基金助成報告

団体名(活動エリア) 助成額(円)	助成金の使い道と近況報告
秋津体操クラブ(習志野市秋津) トランポリンと跳躍板購入 300,000 	<p>クラブを始めてちょうど10年。20～30人から始まったクラブがいつの間にか大きくなり、市外からも子どもたちが来るようになりました。ずっと溶け込める子もいますが、なかなか親から離れない子もいます。そんな子たちも一度トランポリンで跳ぶ楽しさを知ると笑顔になり、次からは積極的に参加するようになります。今まで跳び箱が跳べなかった子たちも、新しい跳躍板(踏み切り板)で蹴りの大切さを容易に学べ、跳ぶ達成感を味わえるようになりました。より多くの子に体を動かすことや人とふれ合うことの楽しさを伝えるために活動していきたいと思ひます。</p>
種の会(柏市・東葛エリア) アート講座の画材購入 153,800 	<p>「脳いきいきアートを楽しもう」という介護予防講座を開催しています。絵を描いたり造形物をつくったりすることで、独特の自己表現や眠っている創造力を発揮できます。参加者が各自画材を用意するのは講座参加へのハードルが高く、絵の具は消耗品であるため常に補充が必要でした。今回の助成により絵筆や絵の具の補填をして参加者の負担を軽減し、人員の増加に備えることができました。参加者からは「新たな楽しみができた」「自分の作品を美しいと思えうれしかった」などの感想がありました。子ども対象の講座も開催し新たな可能性を見出すこともできました。</p>
NPO 法人千葉県中途失聴者・難聴者協会 東葛北事務所(柏市新柏) OHCプロジェクター購入 250,000 	<p>私たち中途失聴者、難聴者にとっての情報は、文字によって得るのが第一です。協会で開催する学習会や例会は、OHPやOHC(書画カメラ)のプロジェクター、スクリーン等が常設されている公共の場所を探して開催してきましたが、機械も古く鮮明さを欠いてきました。積立金に助成金を足して高価なOHCプロジェクターを早速購入しました。スムーズに設置でき、スクリーンに鮮明に映し出され、格段に見やすくなり満足しています。</p>
NPO 法人市川子ども文化ステーション(市川市) 講座の開催費 100,000 	<p>乳幼児を持つ親対象に、親子遊び、体を動かすエアロビ体験、心を動かすコミュニケーションづくり講座の3つの場をつくりました。助成金は参加費の補助と講師費用の一部としました。温かいエールと元気をくれる講師との出会いで、お母さんたちに楽しさをたっぷり味わってもらうことができました。子どもと向き合う眼差しに少し余裕ができたという声、自分が人とつながって楽しさを伝えていこうという思いも少し芽生えたようです。この心の動き＝感動が、自分発見であり、自ら何かをやってみたいという意欲や自己肯定感につながったと思ひます。</p>
特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所(千葉市稲毛区園生地区) 地域コミュニティの再生事業 4,700,000 	<p>法人理念のだれもが自分らしく安心して暮らせる地域協同社会づくりに貢献することを念頭に、本部事務所のある園生をモデル地域として2011～13年の3カ年計画のテーマである地域コミュニティの再生事業に取り組んでいます。子どもの一時期預かり「たあ～たん」、地域交流の場「あみいこ」の企画運営、見守りサービス「アウル」と生活支援サービス「ボンズ」に取り組み始めました。今回の助成金は新たな事業の準備など、法人経営全体に充てました。今後も地域福祉推進の担い手として、地域コミュニティの再生事業をはじめ多様な事業に取り組んでいきたいと思ひます。 ＊VAICコミュニティケア研究所は生活クラブ千葉グループ団体です。</p>
スワンベーカリー柏店(柏市) 障がい者の持続的な就労支援 2,000,000 	<p>当店はおかげさまで9年目を迎えることができました。障がいのある3人のスタッフは、セットパンニュースの名物コーナー「今週の小林さん」の執筆や、動物パンやコロケパンづくり、販売などそれぞれの得意分野で日々の業務をこなしています。昨年より消費材コーナーを新設しました。ラックは流山高等学園につくってもらったものです。東葛ブロックと即売会を行い、数人の加入もありました。今後もより多くの方に生活クラブを知ってもらうため、生活クラブのアンテナショップとしても地域にアピールしていけたらと考えています。 ＊スワンベーカリー柏店は生活クラブ虹の街が運営するパンの製造販売店です。</p>
合計 8,693,800	

特集 エッコロ福祉基金助成報告



助成を受けた団体の近況報告

・・・どの団体からも助成金への感謝の言葉がありました・・・

団体名（活動エリア）助成額（円）	助成金の使い道と近況報告
特定非営利活動法人ねむの里（印旛郡栄町） 作業室改装 300,000 	障がいのある人へ就労の場を提供しています。念願の第三事業所「幹」をようやく立ち上げました。レストランやお菓子工房で能力を十分に発揮できなかったメンバーの力を、少しでも引き出せるようにと改修した広い作業場の大きなテーブルで、販売に使用する袋づくりや紙漉きなどを行っています。受け入れ体制が広がったことで4月から3人のメンバーが新しく加わりました。天気の良い日は外でEMIほかしや畑の作業、販売車でお菓子の販売へと元気に活躍しています。地域の方々に応援してもらいながら交流の場にしていきたいと思います。
特定非営利活動法人木ようの家（佐倉市栄町） 点字名刺作成機器購入 300,000 	点字名刺は一枚一枚、知的あるいは精神障がいのある人がプレスし作成しています。新しい機械を購入したので、点字刻印がよりきれいに鮮明に仕上がるようになりました。古い機械は、商品として出せるまでの練習用に使用しています。機械が2台あることで、作成の稼働率が上がりました。メンバーにとって「点字作成で働かお金をいただく」という経験が、外へ就労する動機づけあるいはステップアップにもつながっています。課題は、企業からの名刺の注文数が伸び悩んでいることです。今後は、受注のための営業活動にも力を入れます。
特定非営利活動法人恵み野会（富里市） ゆったりトイレの増設費 300,000 	たとえ障がいがあっても、地域の中で元気に楽しく幸せに育ち、暮らしてほしいと2007年に地元で唯一の小規模福祉事業所を立ち上げました。古い木造の一般住宅を借りているので、水洗の洋式トイレにはしましたが昔ながらの小さなもので、トイレトレーニングがまだの方や車椅子の方には、かなり厳しいものがあり、スタッフの手も必要でした。新しいトイレは、男子専用と男女兼用が1つずつ、車椅子もゆっくり回転でき、手洗い場が内部に設置されていてすぐに手も洗える優れたもの。作業室に隣接しているので便利になりました。
柏市朗読奉仕サークル内療癒勉強会（柏市加賀） 朗読ソフト・編集ソフト購入 140,000 	視覚障がいのある人向けに、はり灸関係の医学書等を音読したCDを作成しています。助成金で朗読ソフトと編集ソフトの購入、勉強用教科書の補助をしました。まず、朗読ソフトを使いこなせるようにして編集の人数を増やすのが課題です。今年度療癒勉強会に入会した人が医学書を読めるようになるまでは少なくとも2～3年はかかります。若い方が少なかったのが、朗読ソフトと本の補助があることで、8人も一度に増えたことはうれしい限りです。助成金で、このような地味な勉強会も時代に合わせて続けることができます。
小林住みよいまちづくり会小林子ども守り隊（印西市小林地区）パトロールグッズ購入 150,000 	毎日子どもたちが安全に登下校できるように、小林地区すべての交差点での交通指導・挨拶指導を展開する際のパトロールグッズ（信号灯・腕章・帽子）を揃えて、会員の意識向上に役立てました。また、「小林子ども守り隊」ネーム入りのジャケットを着用して集団で地域内をパトロールしていますが、その会員も増え、防犯パトロール活動が活発になりました。小学校一年生の下校時刻に合わせたパトロールに対して防犯効果が高いということで、今年度も千葉県印西警察署長から感謝状をいただきました。



2012年1月14日公開プレゼンテーションと最終審査風景

活動ファイル

エコメッセ 2012 in ちば

第17回エコメッセ2012 in ちばが9月17日に幕張メッセで開催されました。ちば環境再生基金助成事業として毎年行われ、千葉県内の企業や地域で環境活動をしている団体が、環境保全の取り組みの紹介や環境に配慮した商品の展示・販売を行います。10年ぶりに参加した虹の街は、グリーンシステムや風車のパネル展示をしてアピールし、アンケートに参加してくれた方にミニサンプルを渡し、加入につなげました。

他のブースでは、合成洗剤とせっけんが水生生物に与える影響の違いや、さまざまなりサイクル品、たばこの害についてなどの展示がありました。なかでも、小水力発電の展示は仕組みがよくわかり非常に興味をひかれました。

別の部屋では「どう取り組むかこれからの新エネルギー」と題し、(株)オルタナの森撰さん、環境エネルギー政策研究所の松原弘直さん、ワタミエコロジー(株)の小出浩平さん、みんな電力(株)の大石英司さんのパネルディスカッションが行われました。コーディネーターは(社)パートナーシップ会議星野智子さん。民主主義とエネルギーをテーマに、これからはエネルギーも選択していく時代であること、3.11以降市民の意識の変化により市民活動が盛んになっていること、千葉県の意識はまだ低く市民からの働きかけが必要なことなど、会場からの意見も加わり、活発なディスカッションとなりました。

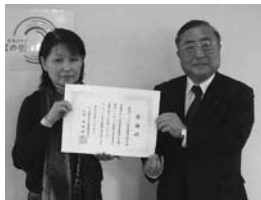
他団体とつながりを持ち、生活クラ



ブを地域にアピールした有意義な一日でした。環境担当理事 小畑聖子

ちば環境再生基金から感謝状

ちば環境再生基金は、千葉県が02年2月に策定したちば環境再生計画を推進するために、(一財)千葉県環境財団に設置された基金です。自然環境の保全と再生を目的とした活動への支援・助成を行っています。虹の街もこの活動に賛同し組合員に募金を呼びかけ寄付を行ってきました。長年にわたるこの活動に対して12月5日虹の



街本部にて、ちば環境再生基金から感謝状が授与されました。(鈴木ますみ)

千葉県環境財団長濱純理事長(右)と虹の街新保ちい子理事長

エコライフのつどい

11月1日、新宿文化センターにてサステナブル活動推進連絡会主催のエコライフのつどいが開催され69人(千葉からは15人)が参加しました。

第1部の基調講演は(有)ひのでやエコライフ研究所の鈴木靖文さん(写真)による「暮らしを上手に見直し、たのしく節電しよう!~料金値上げ



に負けないぞ!~」。内容は、この夏の節電の成果や光熱料金値上げは続くこと、2050年までにCO₂の排出削減50%が世界で合意されていることなど。家庭では、冷蔵庫や照明器具、テレビ、エアコンなどの電気使用量が多く、古いものを新しくすることで無理なく楽に節電する提案がありました。

第2部では静岡・長野・都市生活・埼玉・大阪・千葉の組合員代表が活動報告を行いました。千葉は節電キャンペーンではトップの成績(登録者数3位・15%削減者数1位)でした。理事の小畑聖子さんは、「首都圏リージョ

ナル連帯の生活クラブ風車についての学習会が数多く実施されたことが、節電キャンペーンの啓蒙につながった」と報告しました。(鈴木ますみ)

くらしの見直し講演会



11月21日、船橋商工会議所にて「これで不安解消! 医療保障設計のツボ~変化する医療保険事情と日本の医療制度~」をテーマに講演会を開催。講師はファイナンシャルプランナーの内藤真弓さん(写真)、71人が参加しました。

内藤さんは「保険はしかるべき時にしかるべき給付が受けられることが大事。まず、医療費が実際どのくらいかかるのか知ること。約款をよく読んできちんと判断すること。保険は契約なのでルールを守って加入することも大切で、誤った告知のために保険が解除されると、保険料も戻らないし給付も受けられないこともある」「受取人の変更などメンテナンスも必要。現役世代は、入院等で収入が途絶えてしまう不安があるので期間限定の医療保険に加入するのも一考の余地がある。子どもの成長と貯蓄の増加で保険に頼る領域はだんだん狭くなる。リタイアしたら、保険を卒業し貯蓄にシフトすることも考えよう」と、くらしの変化に応じて保険を見直す必要性を話しました。

参加者からは「目からウロコが落ちるような思いだった。わが家の保険も見直してみようと思った」「将来を考えると貯蓄に勝る保険はないということがわかった。今を有意義に生活しながら貯蓄したいと思う」などの感想があり、くらしの保障を見直すきっかけとなりました。

エコ口福祉委員 甘利美恵子

映画『隣る人』上映会



『隣る人』は埼玉県児童養護施設 光の子どもの家を8年間撮り続けたドキュメンタリー映画です。自主上映のきっかけは、たくさんの

人に児童養護施設の現状を知ってもらいたいという思いからでした。生活クラブ風の村が君津市に建設する児童養護施設の子どもたちを支援するために立ち上げた、VAIC-CCIと生活クラブ虹の街による児童養護施設支援プロジェクトが主催しました。

貧困や虐待などさまざまな理由で親と暮らせない子どもたちが生活する児童養護施設は、全国でおよそ570あり、約31,000人の子どもたちがいます。映画では施設での子どもと先生のように淡々と映し出されていました。その日常は家庭的でもあり規則的でもあり、でもそれが子どもたちのすべてなのです。

上映会は、千葉県美浜区、君津市、松戸市で行い、のべ300人あまりが鑑賞しました。11月10日の君津での上映会には100人を越える参加があり、施設長就任予定の高橋克己さんは、継続した支援が必要と語りました。アンケートには、支援をしたいという多くの言葉が寄せられました。プロジェクトでは何が必要かを話し合い、支援組織の発足をめざして検討しています。

映画のなかで、保育士のマリ子先生が10歳の誕生日を迎えたムっちゃんに「どんなムっちゃんも大好き。ずっと一緒にいようね」と話す場面があります。子ども一人ひとりに隣る人が必要です。あなたも子どもたちのために隣る人になりませんか？

児童養護支援プロジェクト 並木道代

託児交流会

託児ケアシステム風船はVAIC-CCIへ委託運用が始まって4年経ちました。エッコロ福祉委員会では、顔の見える関係性を再確認し構築していくことを目的に、託児利用者・託児ケア者・虹の街の3者による交流会を京葉と上総方面の2会場で開催しました。11月26日、虹の街本部での企画に親子12組とケア者5人が参加しました。

エッコロ福祉委員の飯沼奈津子さんから、組合員活動の企画で託児を利用する際、費用はエッコロ制度(P5 図参照)から支出されていることなど託児ケアシステムについて説明があり、VAIC-CCIの坂東育子さんからは事業内容や経過について報告がありました。

今回はコミュニケーションひろばのベビー・キッズマッサージ講師の秦綾子さんに、親子マッサージを教わりました。冬場はまず手を温めて、風邪予防には脇の下のリンパをよくマッサージ。顔から順番に足、おなかにテンポ良く触れていきます。「託児に預ける前にも、不安がる子どもに触れながらきちんと説明してあげることはとても大切。特に進学時や環境が変化する時など、たくさん触れることで子どもは自信がつく」と秦さん。昼食交流会では、塩むすびと味噌汁が用意され、私と一緒に参加した2歳の娘も喜んで食べていました。託児でお世話になったことのあるケア者の顔ぶれに子どもたちが嬉しそうにはしゃぐ姿や、親とケア者がゆっくり語り合うようすも見られ、楽しく有意義な時間を過ごしました。

(高山紀美子)



秦さん

子どもの居場所こどもカフェ

「こんにちは〜」「元気だった？」毎週火曜日の放課後、デポ一園生の2階 地域活動スペース虹に、小学生たちが次々と集まってきました。こどもカフェ「3rd プレイス虹」のオープンです。子どもたちを迎えるのは、スタッフと大学生のボランティア。子どもたちは、畳の上でゲームをしたり、本を読んだり、大学生に宿題を見てもらったりしながら過ごします。



こどもカフェは、千葉市の次世代育成支援行動計画として位置付けられています。千葉市が運営事業者の公募を行い、NPO法人VAICコミュニティケア研究所(VAIC-CCI)が選定され、半年間の委託を受けて2012年10月にスタートしました。子どもたちにとって居心地が良く、落ち着くことができる身近なカフェのような場所で、信頼できる大人が見守るなか、異年齢の子どもたちが一緒に遊び、学び、育つことができる場所をめざしています。

虹の街とVAIC-CCIは、10年度から子育ての社会化研究会を開催。12年度は福祉・地域づくり政策に基づき、稲毛区における子育て・子育て支援活動の地域への浸透と新たな事業活動の具体化として「いなげモデル」づくりに取り組んでいます。こどもカフェをこのモデルづくりのひとつとして位置付け、地域への広報活動や説明、ボランティア登録活動、イベント企画などをすすめています。今後、6カ月の事業を振り返り、13年度の取り組みを検討する予定です。

京葉ブロック理事長 中井孝子

活動ファイル

宮台真司氏講演会



社会学者、評論家、首都大学東京教授の宮台さん

12月7日、千葉市美浜文化ホールで環境委員会は宮台真司氏講演会を開催しました。テーマは「いま求められる共同体自治」。参加者は68人でした。

宮台さんは、「民主主義の機能不全の一因はグローバル化にあり、民主主義を支えるのは自立した個人の存在で、それを産みだし支えるのは自立した共同体しかない」。そうした社会のあり方を設計する指針として「参加と包摂」を提示し、「参加とは、人任せにして文句を言うのではなく引き受けて考えるということ。不安と鬱屈を抱えた人々を共同体のうちに囲い込み、孤独化させないで包摂すること」と語りました。大きなものに依存する考えを持っていたのでは自立した共同体はつukれないことがわかり、討議ではなく熟議を重ねて、自己決定をしていきたいと思いました。

また、生活クラブについて宅配との違いを例に、「共同体の自治とはまさしく共同購入のこと。電力を商品とすると自然エネルギーによる電力供給はこうした共同体でしか回らない」と宮台さん。私たちの共同購入運動はどういう価値に基づいたものかを考え、皆で共有できれば、同じものをめざしていけるのではないのでしょうか。

最後に「参加と包摂を強めてどのように共同体自治をつくっていくのが、生活クラブの使命だと思います。私たち一人ひとりが考え方をえ、そのなかで変わっていくことが必要です。食やエネルギーの自治による持続可能な

社会、一人ひとりが包摂される社会づくりをすすめていきたいと思います」と新保ちい子理事長からまとめの挨拶がありました。

おおぜいの組合員に聞いて、そして考えてもらいたかった内容でした。

環境委員 大塚たか子

福島の放射能汚染と日常生活の現状

10月12日、虹の街本部にて、生活クラブふくしまの放射能対策チームによる報告会を開催し、44人の参加がありました。

ふくしま理事の加藤智子さんは、福島市内の公園などの空間線量を測定し、ホームページにマップを掲載した活動を報告。避難したくてもさまざまな事情で避難できない人が多くいることや、放射線量が依然高い公園が多いため、子どもたちを安心して遊ばせられないという現地のようすを話しました。

事務局の倉形正則さんは、福島の病院で実施したホールボディカウンターによる体内被ばく測定結果を報告。事故直後に比べるとほとんどの子の放射能値が下がっているが、地元の干し柿やきのこをたくさん食べていた子は以前より上がっている傾向があるので、食べ物に気をつけることはとても重要であると訴えました。

また、福島県の県民健康管理調査で18歳以下の子どもの35%以上に、甲状腺にのう胞や結節が発見されているのにも関わらず、エコー画像などの詳しい検査結果は情報開示請求をしなければ得られず、セカンドオピニオンも受けられないという状況が報告されました。「放射性ヨウ素は関東を含め広範囲に広がったと言われている。福島



加藤さん(右)と倉形さん

県のみならず全国どこでも、誰でも甲状腺検査を受けられる体制が整うように要望活動を続けていくので、千葉の組合員にもぜひ協力をお願いしたい」と結びました。

環境担当理事 榊原樹子

地域づくりフォーラム2012

10月6日千葉県教育会館で、生活クラブ千葉グループ連絡協議会主催の地域づくりフォーラム2012が開催され122人が参加しました。実行委員長の生活クラブ虹の街副理事長木村庸子さんが、開会挨拶と生活クラブ千葉グループの概要を説明しました。

湯浅誠さん(反貧困ネットワーク事務局長、自立生活サポートセンター・



もやい事務局長、写真)の基調講演のテーマは、「誰もが排除されことなく安心して暮らせる社会をつくる」。湯浅さんは、格差という言葉では収まらない状況を貧困と表現。「日本は、欧米の倍以上の速さで高齢化しており、それに伴う経済格差が広がっている。現行の制度では救済できない人のための制度づくりを行い、新しい公共でやっていくしかない。一人ひとりが主権者となり話し合っつながっていくことで民主主義が活性化される」と話しました。

後半は「生活クラブ千葉グループの総合力ですすすめる地域貢献」をテーマに、生活クラブ版地域福祉活動計画やいなげビレッジ虹と風、ユニバーサル就労システム、ちばのWA地域づくり基金の報告がありました。さらに湯浅さんに加え活発なパネルディスカッションが行われました。(鈴木ますみ)



コルザモニターから届いた意見・感想を掲載します。

12・1月号を読んで

魚戸おさむさんのマンガ「玄米せんせいの弁当箱」8巻目の「醤油の声〈前編〉〈後編〉」という話の中でタイハイ(株)さんの木桶での醤油づくりが紹介されています。35万人アクションの生産者交流会でもタイハイ(株)さんのお話を伺いましたが、ペロツとなめてみただけで、断然風味の違いが分かりました。木桶にこだわってつくり続ける安心安全な丸大豆醤油…これからもその良さを周りに伝え、食べ支えていきたいです。

震災後から人々の復興支援の継続性が危ぶまれていましたが、上総ブロックの方々ですっといろいろな活動を続けているのを記事で知り、すごいなあと思いました。私も長期にわたる復興作業を何かしらの形で「応縁」していきたい、そしてその気持ちを継続させていきたい、と思います。(ちょび)

一般的につくられている醤油もでき上がるまでに手間がかかる感じなのに、大豆にこだわり、麴を手間ひまかけてつくり、加熱で微生物を殺菌し、醤油の香りや色味をつけてびんに入れていて、とても大事につくられていることを知りました。今まで以上に味わいながら、使い続けていきたいと思います。これからも伝統の味を守り続けて欲しいです。(あん)

私の小学生の娘には、知的障がいがあります。先輩ママ達から就労の難しさを聞き、将来の不安が絶えず頭をかすめています。そんななかでスワンベーカリーを知り、ぜひ応援したいという気持ちから、今はセットパンを頼んで、毎回おいしくいただいています。お気に入りにはバナナマフィンとバターロール。少しずつ内容も変わるので、飽きずに食べ続けられます。スワンベーカリーの他にも、障がいのある人ない人が共に、のびのびと働ける場が増えていくといいなあと思います。

児童養護施設の日々のようすを撮影した映画『隣る人』を見ました。これを見て改めて、子どもが育つためには、本当に自分を愛し、見守ってくれる人が絶対に必要なんだと強く思いました。君津につくられる施設は、小さい単位で、できるだけ家庭に近い形で運営さ

れるということで安心しました。また施設内だけではなく、周りの支援が重要であることもわかりました。支援活動にも、積極的に参加していきたいと思っています。(みーね)

丸大豆醤油のページを読み、消費材利用の減少で原材料の入手が困難になった時期があったことを知り、改めて消費材の質を維持することの難しさを思わされました。非遺伝子組み換え作物は生産者にとってよほど手間のかかるものなのですね。つくり続けてもらうためにも、食べる手を維持する必要があるとわかりました。(ほーりー)

生産者と組合員が一緒になってつくり上げてきた丸大豆醤油。生産者の方の「酵母が棲みついている蔵は宝です」との言葉に、人とともに醤油も生きているのだなあと感じました。伝統の味を守るべく私たちが食べ支えることで、大切な「食」を未来へとつないでいこうと思います。(うさこ)

*丸大豆醤油のびんなど、生活クラブはR(リユース)びんを使用しています。



12月理事会報告

1. 今年度米登録活動の総括をしました。We・I組合員は1372人、デポー組合員は480人の新規登録があり、12月現在9147人が登録してお米を利用しています。
2. 東日本大震災復興支援活動の一環として、宮城県亘理地区のいちご農家支援カンパに取り組みすることを決定しました。
3. 生活クラブ風の村が君津市に建設する児童養護施設の支援活動の準備をすすめ、支援組織の概要と提供物資回収など虹の街

としての支援体制について確認しました。

1月理事会報告

1. 2013年度春の組合員拡大キャンペーンのすすめ方を確認。問い合わせや紹介にドライ品・冷蔵品・青果の3種類の消費材セットを活用し、3~6月の期間中に1541人の組合員の加入を計画しました。
2. 12年度エコロ福祉基金一般助成は、最終審査会が行われ、12団体に1,923,175円の助成を決定しました。

3. 風力や太陽光による発電など自然エネルギー社会づくりにむけた生活クラブ首都圏4単協の構想と実施方針を確認しました。
4. ノロウィルス対策を徹底するため、活動時の集団託児室に加え各事業所でも処理セット等を備えることとし、食品を扱う事業者として感染防止策についても確認しました。
5. デポーを地域の拠点とし利用者の運営参加をすすめるため、13年度ワーク参加システムの登録対象者拡大を決定しました。

12月組織報告 総供給高 981,284,887円 総組合員数 38,047人
(12月末現在) (We 6,726人 I 16,934人 デポー 10,957人 経済共済 3,430人)

発行 / 生活クラブ虹の街 発行責任者 / 新保ちい子 編集責任 / 情報役員会
〒261-0011 千葉県美浜区真砂 5-21-12 TEL 043-278-7671 FAX 043-279-7490

★本紙は古紙再生紙を使用しています。http://www.chiba-seikatsclub.coop/

編集後記
阪神淡路大震災から18年、東日本大震災から2年、大切なものを失った人々を癒せるのは、必ずしも時間の経過ではないと感じる。遠くからでも応援できる方法を私も考える。(アリア)

生産者リレーししび 
野菜で元気クラブ

農事組合法人 村悟空



加瀬龍太郎さん

(生産者より)
 村悟空は、旭、銚子、印旛、山武地区と広範囲に組合員が33人。地

元材料を使って堆肥をつくり、できるだけ農薬を使わず、人にやさしい安全でおいしい野菜づくりをすすめています。「昨年の2月に就農したばかりです。早く一人前になって、おいしい野菜がつかれるように頑張ります」。

(主な作付け品目)

パセリ・細ねぎ・大根・キャベツ・きゅうり・トマト・人参・レタスなど

元気クラブは「食と農を大切にする社会づくり」をめざし協同する千葉県の生産者グループで、現在11団体が参加しています。



大葉

大葉のちくわサンド

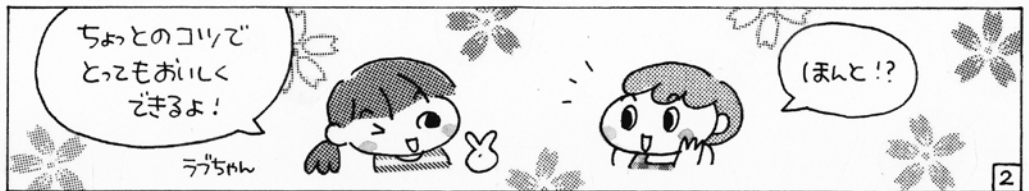
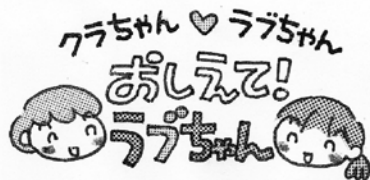
材料 (4人分)

大葉8枚 ちくわ4本 きゅうり・マヨネーズ・チーズ適量

作り方

- ①ちくわを縦半分に切り込みを入れて、うち2本に大葉、マヨネーズ、細長く切ったきゅうりを挟みます。
- ②残り2本にも大葉とチーズを挟み、それぞれ半分に切ります。

*大葉は料理の盛り付けを引き立てるだけでなく、肉や魚の生臭さを消したり食中毒の予防などにも効果があると言われています。栄養成分ではベータカロチン、カルシウム、鉄分、ビタミンB1・B2・Cなどを多く含みます。特にベータカロチンは野菜のなかでトップクラスの含有率。色が鮮やかで葉先がピンとしているものが新鮮です。冷蔵庫で保存する時は、湿らせたキッチンペーパーに包み密封容器に入れておくと、長持ちします。



鶏肉ムネ
おいしく
食べるには?

…の巻
 マンガ ● さかいまなみ



冷凍で届いたお肉に 急に 熱を加えると 石更けなったり パサつくことも…

解凍は 冷蔵庫で ゆっくり!!

繊維に 直角に切る!!

包丁の背で 格子状にたたく!!

小麦粉やマヨネーズをまぶしたり ヨーグルトや塩麹に漬けると さらに 柔らかくなる

両面とも

両みか"ピッ"!!

ムネ肉って モモ肉より うまみ成分(イミノ酸)をたくさん含んでいるんだよ!

水分といっしょに 逃げてしまわないよう 野菜と火炊めるのが オススメ

うまみ成分が 野菜にうつって おいしいよ!